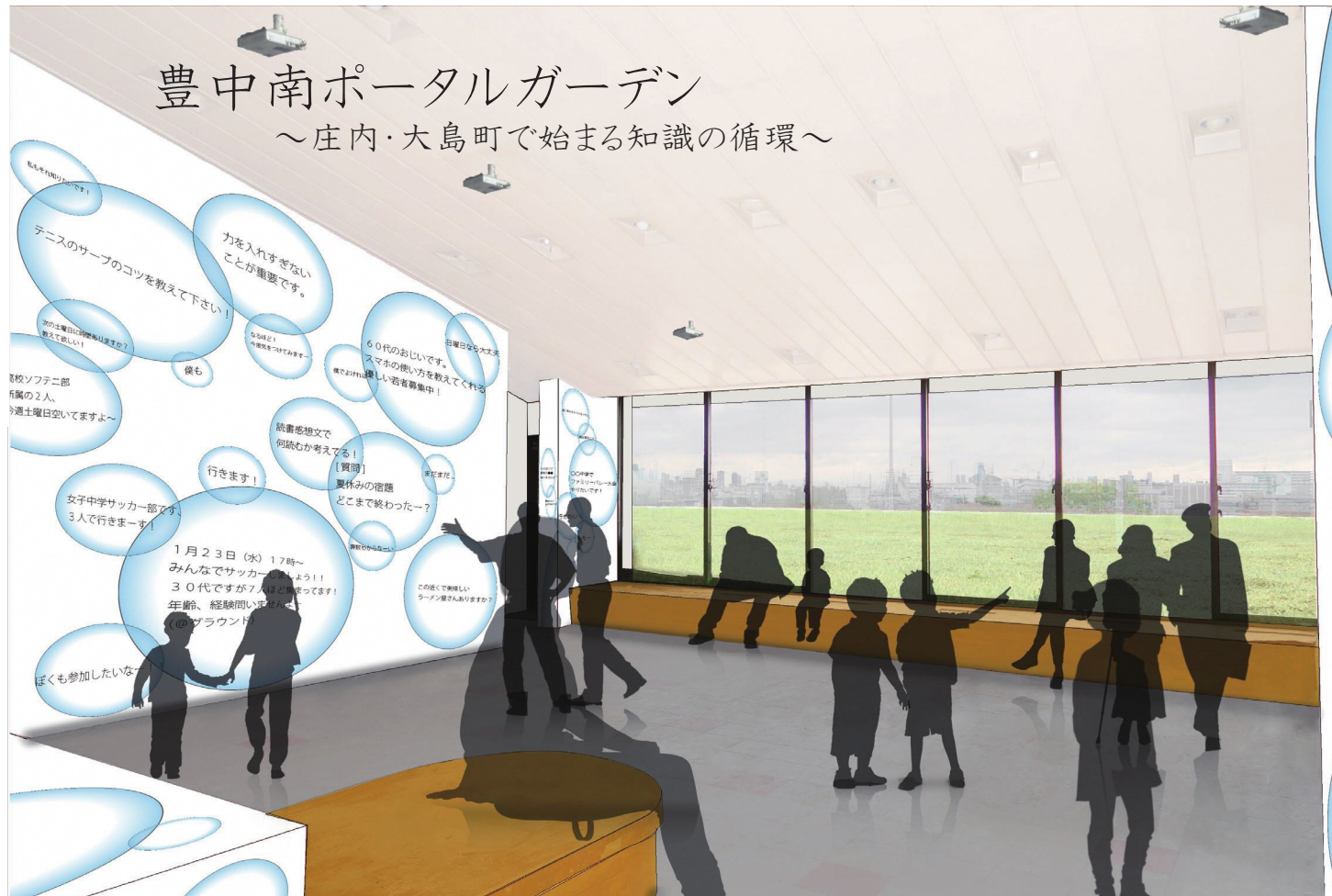


豊中南ポータルガーデン

～庄内・大島町で始まる知識の循環～

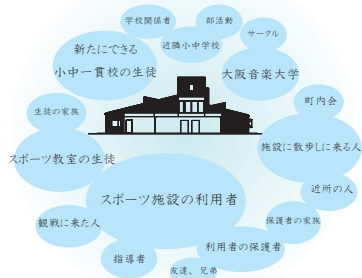


Concept. 知識の循環が世代を超えた交流を生み出す

グリーンスポーツセンター：人の循環
 豊中南ポータルガーデン：知識の循環

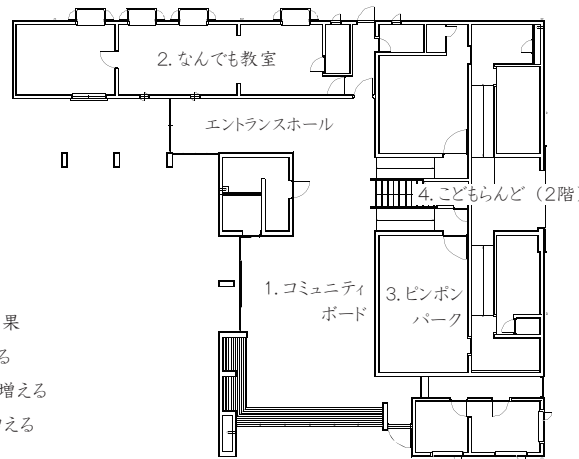
- 庄内・大島町の課題
- ・少子高齢化
- ・交流場所の不足

- スポーツセンターの特徴
- ・豊中市最南端という立地
- ・温水プールの廃止
- ・スポーツに特化した施設



- 人や知識の循環による効果
- ・多様な人の交流が生まれる
- ・学生などの活躍の機会が増える
- ・スポーツに触れる機会が増える

「豊中南ポータルガーデン」を取り巻く多様な人々

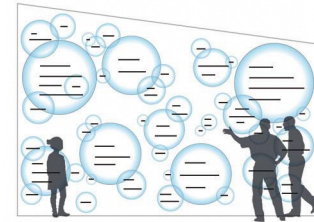


「豊中南ポータルガーデン」1階平面図

1. コミュニティボード

施設利用者が備え付けのタブレットに質問や相談事、雑談などを書きこむと、そのコメントがバブル状になって「コミュニティボード」に投影される。そのコメントに対して他の利用者が返答を書くと、関連付けられて表示される。スポーツだけでなく、教育や子育てなどの情報交換が行われることで、知識の循環が生まれる。

インターネット上のコミュニケーションを、リアルな「豊中南ポータルガーデン」で実践する新たなコミュニケーションツールとなる。



「コミュニティボード」展開図

2. なんでも教室

「コミュニティボード」を通じて地域の人ややりたいことを提案し、その人たちが主体となった教室やイベントなどに使える「なんでも教室」とする。例えば、おばあちゃんによる「手軽に作れるカバン教室」や「高校生による化学実験ショー」など。地域の人たちが蓄えてきた知識を共有する機会を生み出す。またその知識が地域外にも広がっていくことを期待している。



3. ピンポンパーク

ここに来ればいつでも卓球ができる。卓球は、幼稚園児から高齢者まで体格などに関係なく、幅広い世代と一緒に楽しみ、手軽に参加できる屋内スポーツである。普段、接点がない人たちと卓球というスポーツを楽しむことによって新たな交流を生み出すことを期待している。



4. こどもらんど

東側の広場を見下ろせる2階は、子どもが自由に遊べる「こどもらんど」になる。壁には自由に絵を描くこともでき、子どもの創造力を育む場所になる。子どもが1階と2階を行き来することで施設に活発さが生まれる。「こどもらんど」は、1階に親がいても子どもの気配を感じることができ、安心して遊ばせることができる。

